

令和4年度 学校評価重点目標及び取組と評価指標

本年度重点目標	具体的な取組	評価指標	判定基準	
学びに向かう力の育成と学力向上	<p>【学びが楽しい学校づくり】 体験活動や学び合いを基に、一人一人が活躍できる授業を目指し、学習意欲の向上と自己肯定感を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマネジメントの視点から、教科間や学級活動、学校行事とのつながりを十分に意識し、計画的に学習を進めていく。 学び合いを充実させるために、基礎基本が定着するように粘り強く指導する。そして、知識や体験をもとに児童同士が考えをつないでいく授業を目指す。 	<p>(児童アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない (保護者アンケート) 「子どもは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。イ おおむね意欲的に登校している。 ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。</p>	<p>児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下</p>
	<p>【主体的に課題解決する児童の育成】(学校研究) 個別最適化された学びと協働的な学びの実現を目指し、<u>教科の学びを課題解決へとつなげることができる児童を育成する。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数科において、4～6年生は毎単元末で単元まるごとの授業を行う。物事を複合的に考えて課題解決する活発さと実生活に生きて働く力の育成を図る。 【思考力・判断力・表現力等】の授業では、適用問題等で、根拠を示して表現する場面を設定する。 	<p>(児童アンケート) 「相手を意識し、自分の考えを根拠を入れて、わかりやすく説明することができている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (教職員アンケート) 「子ども達に接続詞や学習用語等を意識させ、自分の考えを筋道を立てて説明する指導ができている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった</p>	<p>児童アンケート・教職員アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが80%以上 C…ア+イが70%以上 D…それ以下</p>
	<p>【家庭学習の確立】 保護者と連携し、子どもたちの家庭学習の習慣化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読や漢字・計算練習(高学年は自学ノート)を基本に、学年に応じた家庭学習の時間を確保する。 家庭学習強化週間は特に、お便り等で呼びかけを行う。また、学級懇談では、家庭学習のてびきを活用し日頃の家庭学習の取組について確認し、改善していく。必要に応じて、個別指導も行う。 	<p>(家庭学習調査結果) 家庭学習強化週間記録カードをもとにした、家庭学習の目標(低学年20分・中学年40分・高学年60分以上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満</p>	<p>A…ア B…イ C…ウ D…エ</p>
いじめ・不登校のない学校づくり	<p>【特別活動の充実】 学級生活や学校生活をよりよくするために、児童同士の関係作りを進め、<u>課題を発見し、話し合い、合意形成を図り、意思決定して課題解決に向かう児童を育成する。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動において学級会活動の時間を確保する。 児童が自主的・実践的に取り組むことを通じて、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、合意形成に関わる役割を担うようにする。 	<p>(児童アンケート) 「学級会で友だちの考えを聞きながら、自分の考えを話すことができている。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない (職員アンケート) 「学級活動で学級会活動に取り組んでいる。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない</p>	<p>児童・職員アンケートで A…ア+イが90%以上かつ職アが100% B…ア+イが80%以上かつ職ア90%以上 C…ア+イが70%以上かつ職ア80%以上 D…それ以下</p>
	<p>【規範意識の高揚】 社会的なルールやきまりの意味を理解させ、<u>大切にすることを高め、いじめや差別、暴力のない学校をつくる。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、児童会を中心に生活目標を設定し、具体的にに取り組むことを通じて、社会的なルールやきまりに対する意識を高める。 全職員が全校児童の担任であるという意識を持ち、児童の様子を観察することで、いじめの兆候の早期発見を目指す。さらに、いじめ撲滅集会などを通して、いじめや暴力行為のない学校づくりを目指す。 	<p>(達成目標) (保護者アンケート) 「学校は、いじめや暴力行為のない学校づくりに努めていると思えますか。」 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ あまり思わない エ 思わない (児童アンケート) 「児童会生活目標が守れましたか。」 ア できた イ どちらかといえばできた ウ あまりできなかった エ できなかった</p>	<p>児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが95%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが75%以上 D…それ以下</p>
学校と家庭地域の連携	<p>【自己健康管理能力の向上】 めあてを持って、自らよりよい生活習慣を実践しようとする態度を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝早起朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活習慣の確立を目指し、学期毎に「バランスアップ週間」を設定して取り組む。 各学級で「就寝時刻」「起床時刻」「メディア時間」のめあてを決め、保護者の指導を得て達成度チェックをしてよりよい生活習慣の実践を目指す。 	<p>(バランスアップカードの結果) 早起きのめあてが守られたか。(保護者とめあてを相談) ア 70%以上 イ 60%以上 ウ 50%以上 エ 50%未満</p>	<p>バランスアップカードで A…ア B…イ C…ウ D…エ</p>
	<p>【家庭・地域との連携協力体制の確立】 <u>家庭や地域と学校との繋がりを大切にし、PTAや学校運営協議会を中心にして協働をはかる。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年懇談会で学年ごとの、「家庭生活」の約束(重点目標)を決める。 学校だよりや学級だより等を通じて、取組の啓発を図る。 取り組み強化週間を設け、その結果を児童や保護者に知らせ、意識の継続を図っていく。 	<p>(児童アンケート) 保護者とともに決めた「家庭生活」の約束(重点目標)を達成することができたか。 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (保護者アンケート) お子さんは「家庭生活」の約束(重点目標)を達成することができましたか。 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった</p>	<p>児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが80%以上 B…ア+イが70%以上 C…ア+イが60%以上 D…それ以下</p>
業務改善	<p>【業務改善】 教職員が、心身ともに健康で、明るく元気に児童と向き合うため、<u>時間外勤務時間が月60時間を超える教員(のべ)の割合を0%以下にする。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、第3水曜日を定時退校日とする。また、個別で毎月2回マイ定時退校日を設ける。 週初めに予定退校時刻を設定し、週案に記載することで、時間管理を意識した働き方を推進する。 今年度の最終退校時刻は、19:30とする。 副担当制を取り入れ、業務の平準化を図る。 8月12日、12日～17日、4日間を学校閉庁日とする。 PTAの会合等で取組に対する理解を求める。 	<p>(勤務時間調査) ア: 月60時間を超える教員(のべ)が0%以下である。 イ: 月60時間を超える教員(のべ)が5%以下である。 ウ: 月60時間を超える教員(のべ)が5%を超える。 エ: 月80時間を超える教員がいる。</p>	<p>A…ア B…イ C…ウ D…エ</p>

評価: A 達成 B おおむね達成 C・D 改善が必要